

U.S. Indicators

発表日: 2022年7月29日(金)

米国2四半期連続のマイナス成長(2QGDP:1次推計)

～景気後退に陥っていないが、最終需要の急減速で景気後退に近づく～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

22年4-6月期の実質GDP成長率(1次推計)は、前期比年率▲0.9%(1-3月期同▲1.6%)と2四半期連続のマイナス成長となった。金利急騰や上海ロックダウンによるサプライチェーンの混乱を背景に、投資、消費が抑制された。2四半期連続のマイナス成長となったことで、簡易判断で景気後退に陥ったとの見方がでていますが、雇用などの統計が6月にかけて大幅な拡大を続けていたこと等から、景気循環の正式な認定機関である全米経済研究所は、22年前半に米国経済が景気後退に陥っていなかったと判断しよう。ただし、最終需要は急激に減速しており、景気後退に近づいていることは確かである。

このような景気情勢のもと、FRBはインフレの低下傾向を確認するまで利上げを継続するものの、そのペースを抑制する公算が大きい。

4-6月期には、金利急騰で住宅投資が前期比年率▲14.0%(1-3月期同+0.4%)と落ち込んだ。また、金利急騰や供給制約で増産、建設などを中心に設備投資が前期比年率▲0.1%(1-3月期同+10.0%)と失速したほか、財消費の下振れで個人消費が同+1.0%(同+1.8%)と減速したことを背景に、民間需要の基調を示す民間国内最終需要は前期比年率0.0%(1-3月期同+3.0%)と急減速した。また、政府支出が前期比年率▲1.9%(1-3月期同▲2.9%)と減少を続けたことで、実質国内最終需要は前期比年率▲0.3%(1-3月期同+2.0%)と縮小に転じた。

在庫投資のGDP寄与は、サプライチェーンの問題等による輸入の大幅鈍化を映じて前期比年率▲2.01%(同▲0.35%)とマイナス幅を拡大した。一方、輸出の大幅増加や輸入の大幅鈍化で純輸出のGDP寄与が前期比年率+1.43%(1-3月期同▲3.23%)とプラスに転じたことで、実質GDP成長率は前期比年率▲0.7%(1-3月期同▲1.6%)とマイナス幅を縮小した。

景気の基調をみると、3四半期移動平均で国内最終需要が4-6月期に前期比年率+1.4%(1-3月期同+1.9%)、実質GDPは同+1.4%(1-3月期同+2.5%)と一段と減速しており、経済成長はインフレの低下を促すペースまで鈍化した。

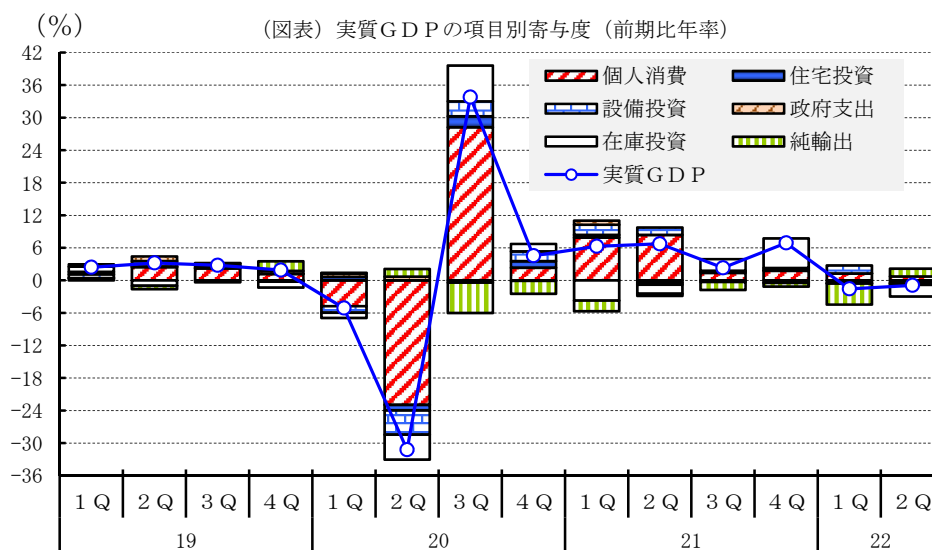
インフレ関連(前年同期比)では、4-6月期のPCEデフレーターがエネルギー・食品の上昇によって+6.5%(前期+6.3%)と上昇したが、PCEコアデフレーターは+4.8%(前期+5.2%)と低下した。また、市場ベースのPCEデフレーターが+6.8%(前期+6.3%)と上昇したが、PCEコアデフレーターが+4.9%(前期+5.0%)と低下した。ただし、コアインフレもサプライチェーンの問題、労働力不足、需給バランスの悪化等によって、高い伸びを続けた。

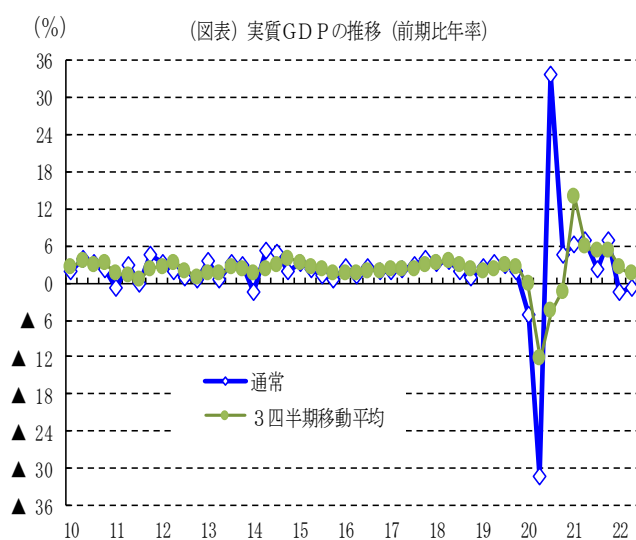


実質GDP (Gross Domestic Product)

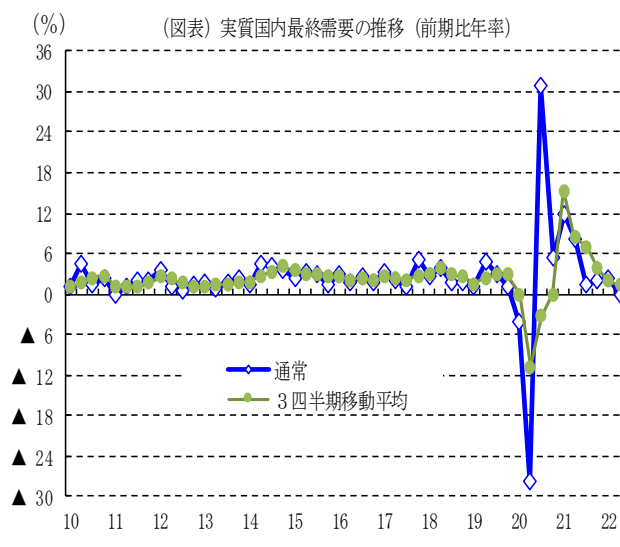
	実質GDP						名目GDP			GDP デフレーター	
	個人消費	住宅投資	設備投資	在庫投資	政府支出	純輸出	輸出	輸入			
2016	+1.7	+2.5	+6.6	+0.9	(▲0.18)	+2.0	(▲0.16)	+0.4	+1.5	+2.7	+1.0
2017	+2.3	+2.4	+4.0	+4.1	(▲0.09)	+0.5	(▲0.03)	+4.1	+4.4	+4.2	+1.9
2018	+2.9	+2.9	▲0.6	+6.4	(+0.25)	+1.4	(▲0.48)	+2.8	+4.1	+5.4	+2.4
2019	+2.3	+2.2	▲0.9	+4.3	(▲0.35)	+2.2	(+0.35)	▲0.1	+1.2	+4.1	+1.8
2020	▲3.4	▲3.8	+6.8	▲5.3	(+0.86)	+2.5	(▲0.86)	▲13.6	▲8.9	▲2.2	+1.3
2021	+5.7	+7.9	+9.2	+7.4	(+0.91)	+0.5	(▲0.81)	+4.5	+14.0	+10.1	+4.2
20/1Q	▲5.1	▲6.9	+20.4	▲8.1	(▲0.51)	+3.7	(▲0.05)	▲16.3	▲13.1	▲3.9	+1.6
20/2Q	▲31.2	▲33.4	▲30.7	▲30.3	(▲4.01)	+3.9	(+1.53)	▲59.9	▲53.1	▲32.4	▲1.5
20/3Q	+33.8	+41.4	+59.9	+18.7	(+6.84)	▲2.1	(▲3.25)	+54.5	+89.2	+38.7	+3.6
20/4Q	+4.5	+3.4	+34.4	+12.5	(+1.10)	▲0.5	(▲1.65)	+22.5	+31.3	+6.6	+2.2
21/1Q	+6.3	+11.4	+13.3	+12.9	(▲2.62)	+4.2	(▲1.56)	▲2.9	+9.3	+10.9	+4.3
21/2Q	+6.7	+12.0	▲11.7	+9.2	(▲1.26)	▲2.0	(▲0.18)	+7.6	+7.1	+13.4	+6.1
21/3Q	+2.3	+2.0	▲7.7	+1.7	(+2.20)	+0.9	(▲1.26)	▲5.3	+4.7	+8.4	+6.0
21/4Q	+6.9	+2.5	+2.2	+2.9	(+5.32)	▲2.6	(▲0.23)	+22.3	+17.9	+14.5	+7.1
22/1Q	▲1.6	+1.8	+0.4	+10.0	(▲0.35)	▲2.9	(▲3.23)	▲4.8	+18.9	+6.6	+8.2
22/2Q	▲0.9	+1.0	▲14.0	▲0.1	(▲2.01)	▲1.9	(+1.43)	+18.0	+3.1	+7.8	+8.7

(注) 数字は前期比年率伸び率。但しカッコ内は対実質GDP寄与度(前期比年率ベース)





(出所)米商務省



(出所)米商務省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

